

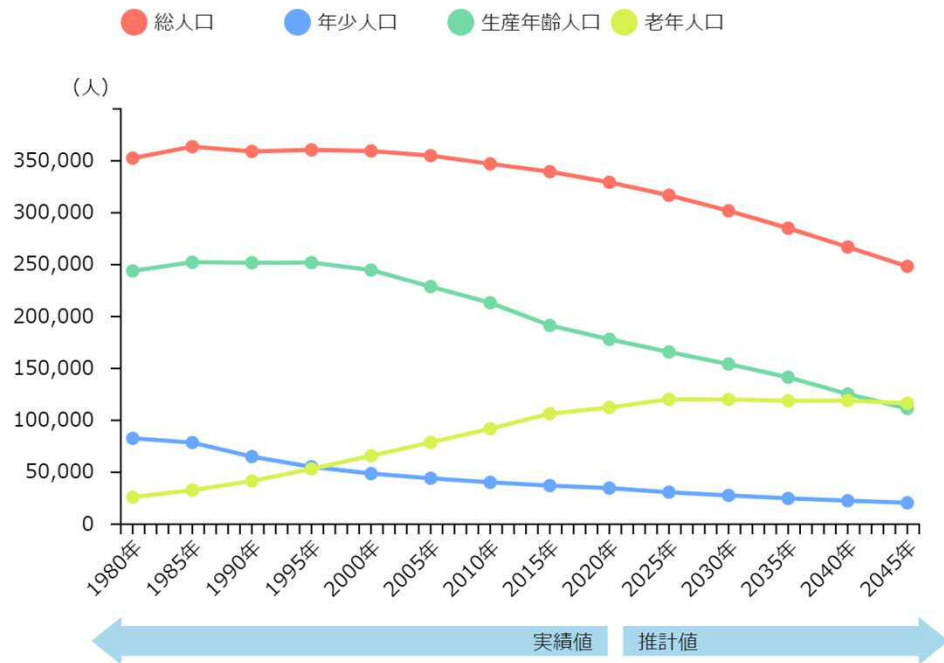
# 旭川地域 経済動向調査

作成日：2023年5月25日

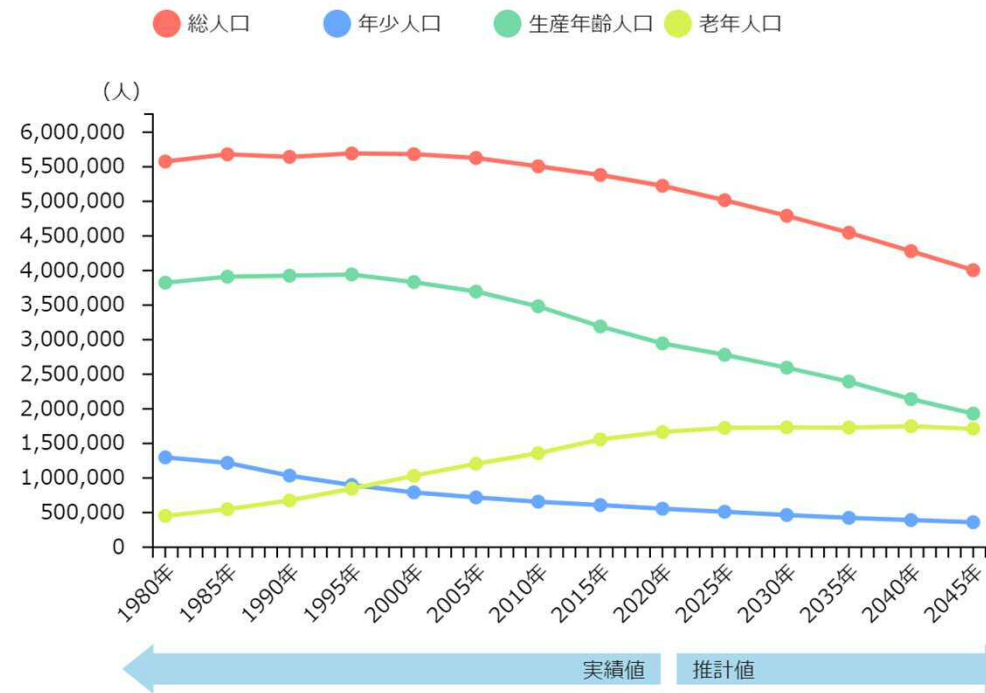
作成者：旭川商工会議所（RESAS活用）

# 1. 人口構成 1-1. 総人口・年代別人口の推移

北海道旭川市

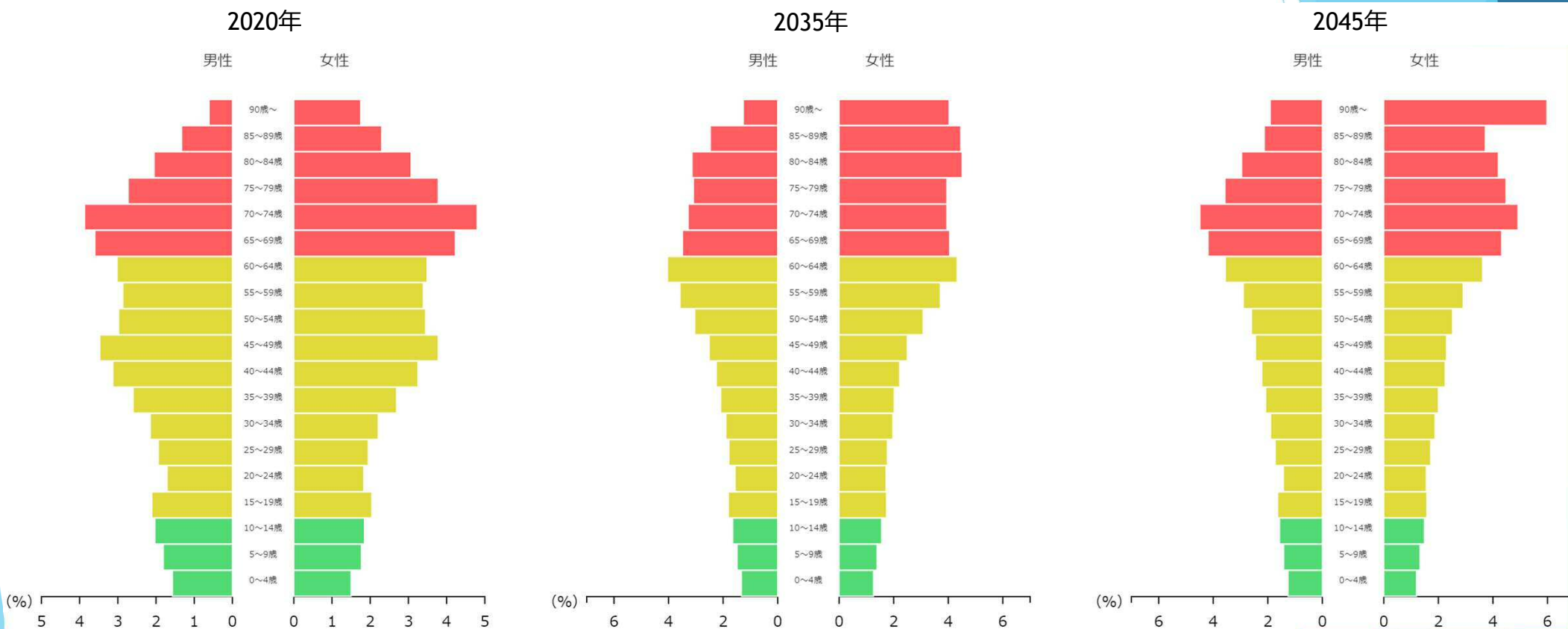


北海道



- ▶ 2020年の老年人口割合は北海道と比べて高い。
- ▶ 2020年の年少人口割合、生産年齢人口割合は北海道と比べて低い。
- ▶ 総人口は2020年と比較して2025年に96.2%。2035年に86.6%、2045年に75.4%になる。

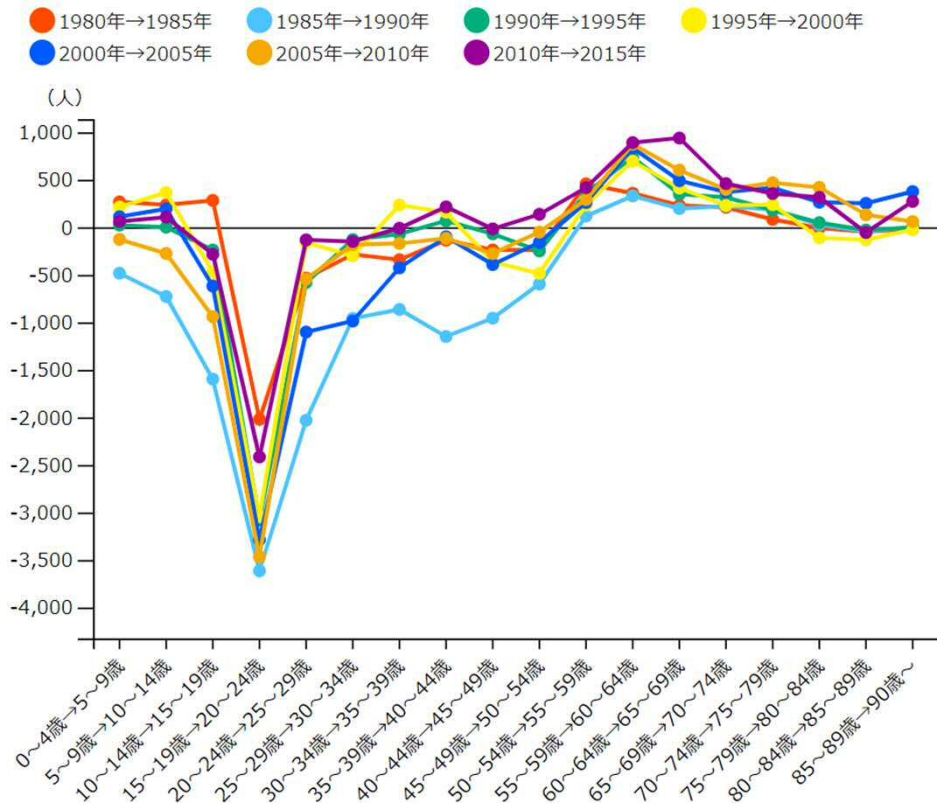
# 1. 人口構成 1-2. 男女別、年齢別構成



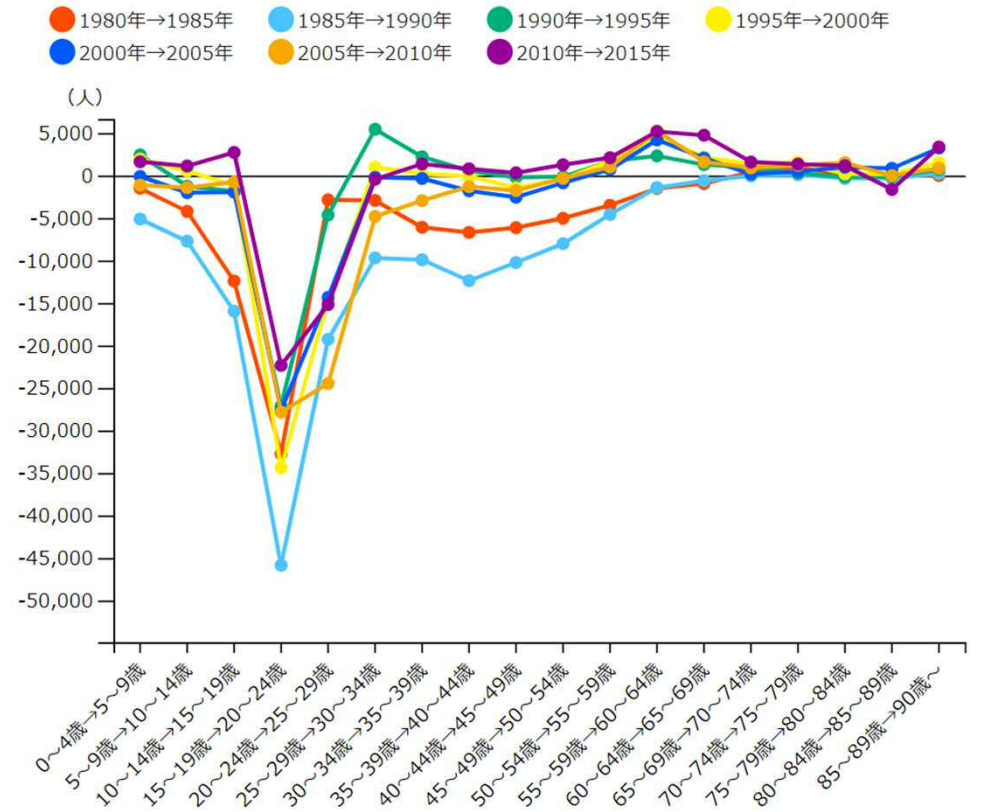
- ▶ 2020年から2045年にかけて老年人口（65歳以上）は3.5%増加する。
- ▶ 2020年から2045年にかけて生産年齢人口（15歳～64歳）は37.4%減少する。
- ▶ 2020年から2045年にかけて年少人口（0歳～14歳）は40.8%減少する。

# 1. 人口構成 1-3. 転入・転出超過の推移

## 北海道旭川市



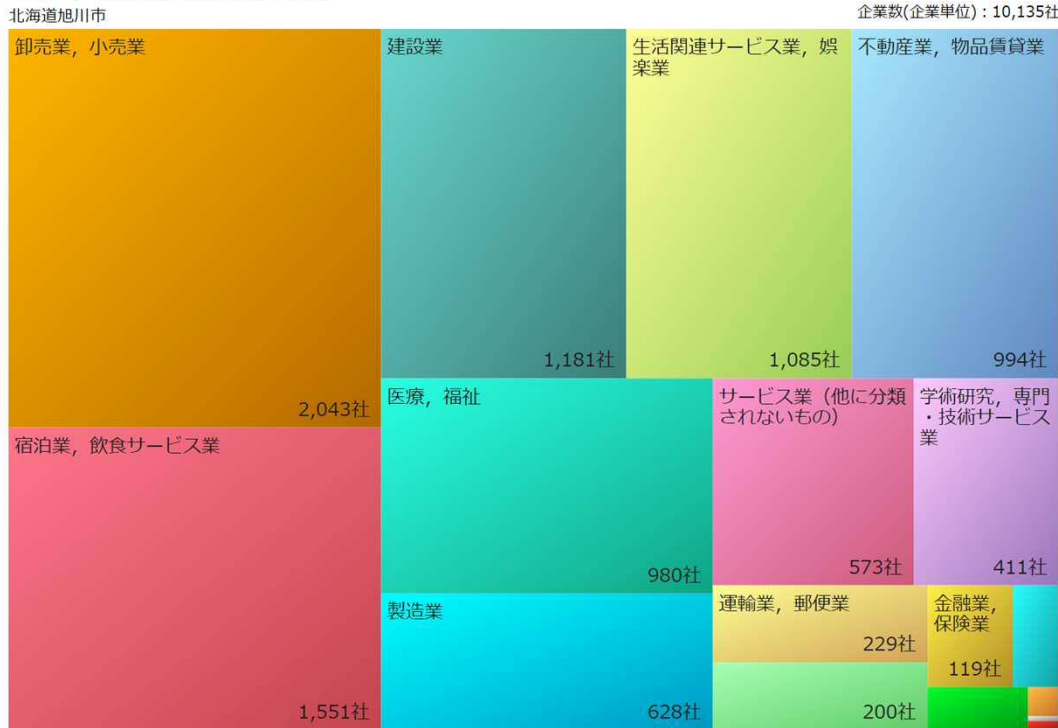
## 北海道



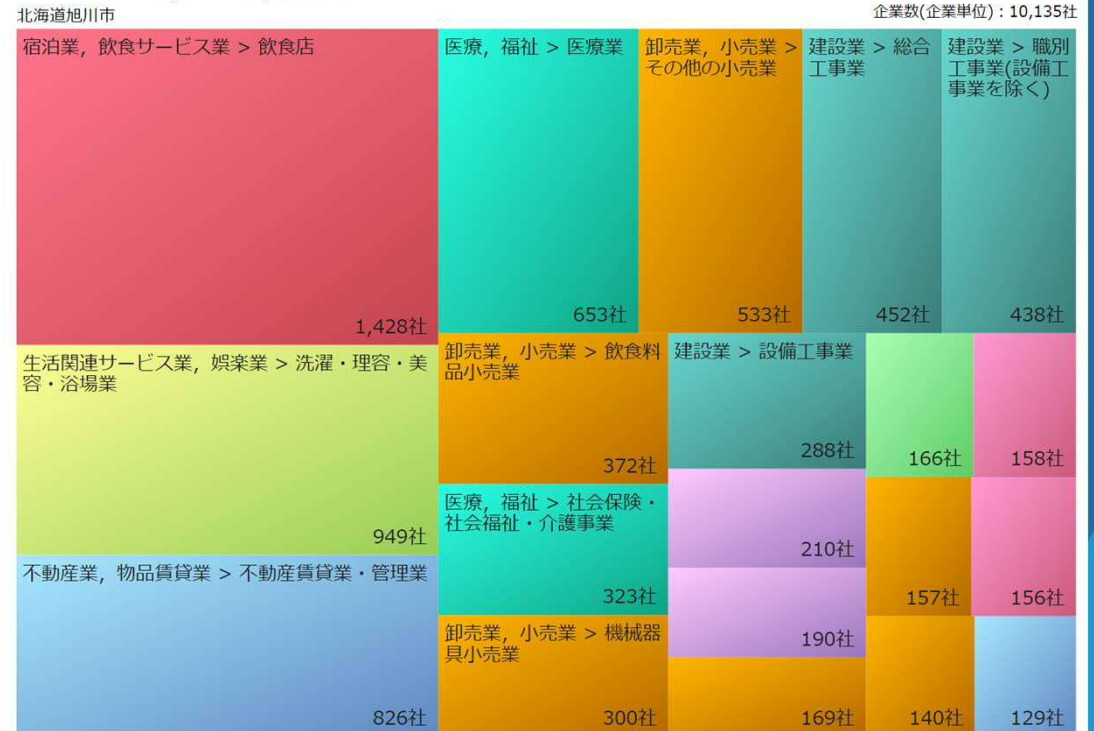
- ▶ 2010年→2015年にかけて60～64歳→65～69歳の転入超過が多い。
- ▶ 2010年→2015年にかけて15～19歳→20～24歳の転出超過が多い。

## 2. 全産業の構造 2-1. 地域の産業の全体像

2016年 企業数(企業単位) 大分類



2016年 企業数(企業単位) 中分類



上図以外の企業数(企業単位)の合算 : 2,098社

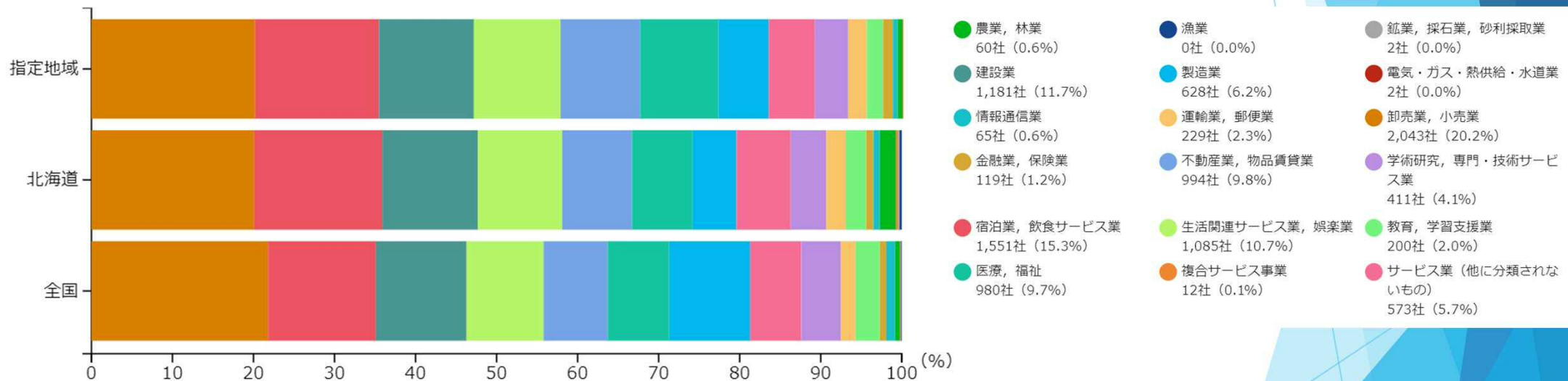
- ▶ 【大分類】卸売業、小売業（2,043社）が最多となり、次いで、宿泊業、飲食サービス業（1,551社）、建設業（1,181社）、生活関連サービス業、娯楽業（1,085社）の結果となった。
- ▶ 【中分類】飲食店（1,428社）が最多となり、次いで、洗濯・理容・美容・浴場業（949社）、医療業（653社）の結果となった。



## 2. 全産業の構造 2-2. 全国の産業構造との比較（企業数）

### 企業数(企業単位) 2016年

指定地域：北海道旭川市

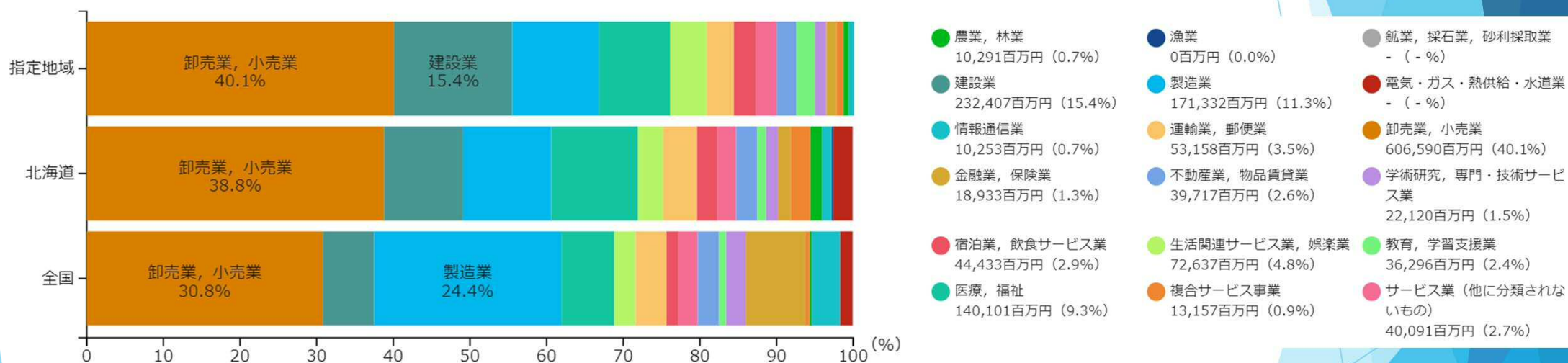


▶ 全国と比較して企業数(企業単位)の割合が高い産業は「宿泊業、飲食サービス業」、「建設業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「不動産業、物品賃貸業」、「医療、福祉」、「運輸業、郵便業」、「金融業、保険業」となった。

## 2. 全産業の構造 2-3. 全国の産業構造との比較（売上高）

### 売上高(企業単位) 2016年

指定地域：北海道旭川市

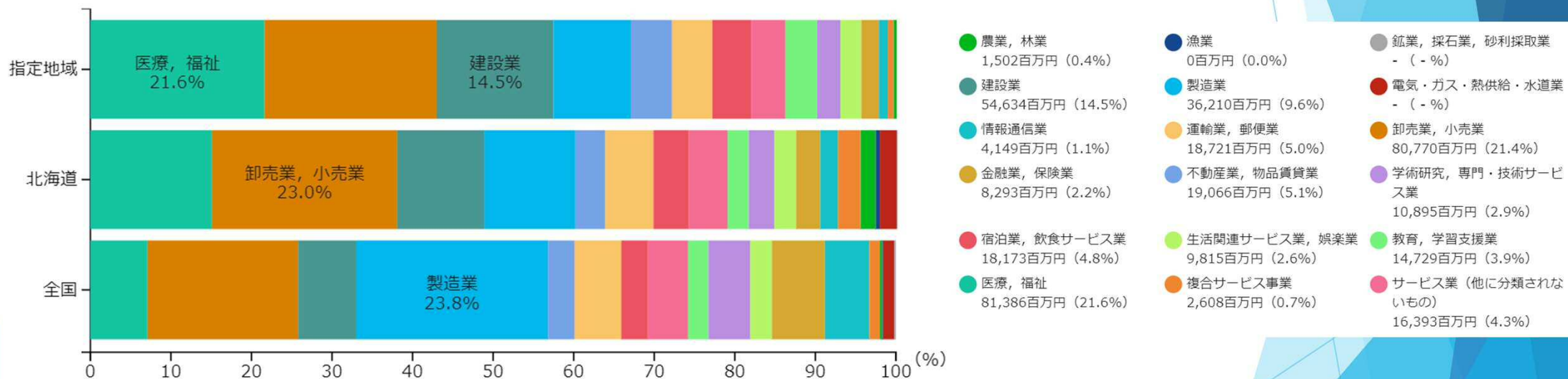


- ▶ 全国と比較して売上高(企業単位)の割合が高い産業は「卸売業、小売業」、「建設業」、「医療、福祉」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「サービス業（他に分類されないもの）」、「教育、学習支援業」、「複合サービス事業」、「農業、林業」である。となった。

## 2. 全産業の構造 2-4. 全国の産業構造との比較（付加価値額）

### 付加価値額(企業単位) 2016年

指定地域：北海道旭川市



▶ 全国と比較して付加価値額(企業単位)の割合が高い産業は「医療、福祉」、「卸売業、小売業」、「建設業」、「不動産業、物品賃貸業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「教育、学習支援業」、「農業、林業」となった。

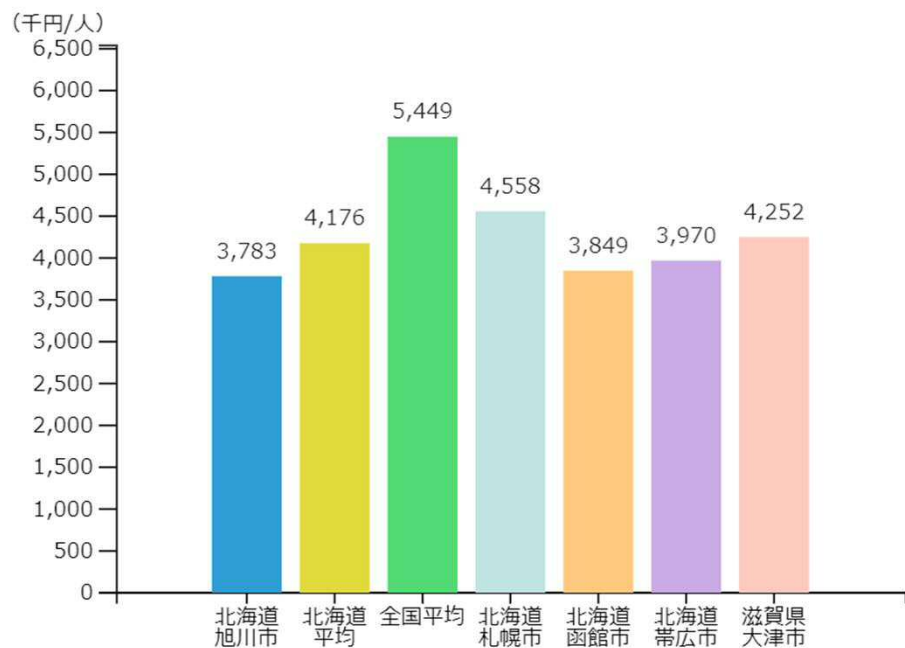
【注記】付加価値額 = 売上高 - 費用総額 + 給与総額 + 租税公課 (費用総額 = 売上原価 + 販売費及び一般管理費)



## 2. 全産業の構造 2-5. 全国の産業構造との比較（労働生産性）

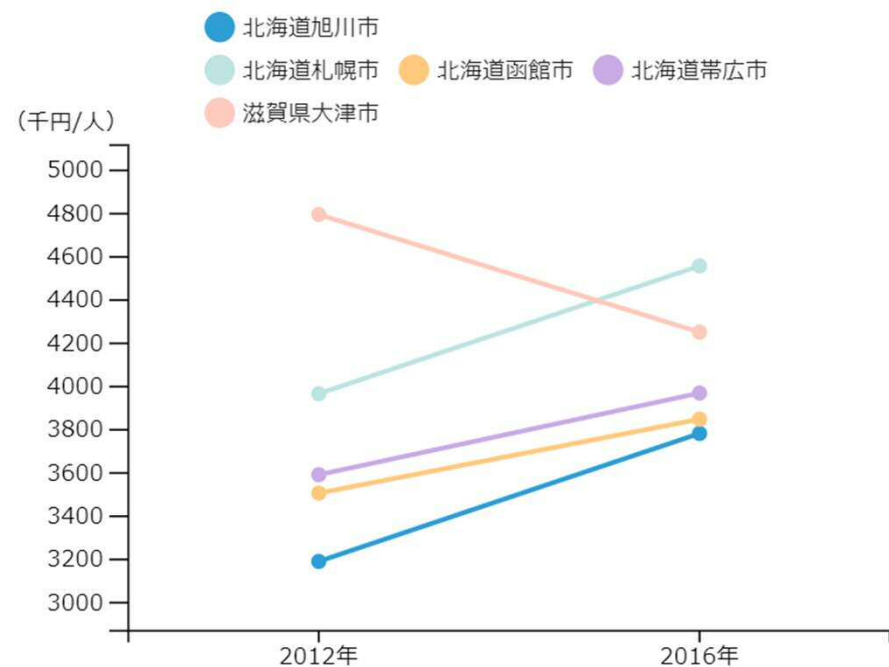
### 労働生産性（企業単位） 2016年

産業：すべての大分類 > すべての中分類



### 労働生産性（企業単位）の推移

産業：すべての大分類 > すべての中分類



- ▶ 労働生産性（企業単位）とその推移について、北海道、全国の平均や道内主要都市、国内の同規模都市（人口・全産業の従業員数割合にて検出）との比較を行った。

【注記】付加価値額÷従業者数で算出。

## 2. 全産業の構造 2-6. 全国の産業構造との比較（業種別）

2016年 北海道旭川市

↑ 特化係数が1（全国平均）以上  
↓ 特化係数が1（全国平均）未満

産業	売上高（企業単位） 実数（百万円）	付加価値額（企業単位） 実数（百万円） （特化係数）	労働生産性（企業単位） 実数（千円/人） （特化係数）	従業者数（企業単位） 実数（人） （特化係数）
総合工事業	153,370	↑ 31,744 (2.10)	↓ 5,814 (0.91)	↑ 5,545 (1.58)
飲食料品卸売業	142,754	↑ 7,403 (1.16)	↓ 3,779 (0.54)	↑ 2,236 (1.61)
機械器具小売業	99,359	↑ 12,764 (1.91)	↓ 4,457 (0.77)	↑ 3,030 (1.75)
建築材料、鉱物・金属材料等卸売業	97,653	↑ 13,661 (1.82)	↓ 8,249 (0.99)	↑ 1,682 (1.25)
医療業	87,340	↑ 48,147 (2.13)	↓ 4,520 (0.97)	↑ 11,047 (1.52)

（注）表示対象は、従業者数（企業単位）の特化係数1以上の売上高上位5産業

（注）付加価値額、労働生産性は企業単位のデータのため、本社が当該自治体以外の企業のデータが含まれない場合がある

- ▶ 全国と比較して付加価値額(企業単位)の割合が高い産業は「医療、福祉」、「卸売業、小売業」、「建設業」、「不動産業、物品賃貸業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「教育、学習支援業」、「農業、林業」となった。

【注記】付加価値額 = 売上高 - 費用総額 + 給与総額 + 租税公課（費用総額 = 売上原価 + 販売費及び一般管理費）

# 3. 旭川商工会議所 2022年度LOBO調査 (早期景気観測) 結果

- ▶ 旭川商工会議所では地域の景況感をリアルタイムで把握するために、旭川商工会議所にて毎月実施している。
- ▶ 本掲載結果 2022年4月～2023年3月 調査企業 200社 回収率 平均62.75%
- ▶ 【DI値(景気判断指数)について】DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準とし、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。
- ▶ ※DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)  
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)  
仕入単価 : (下落) - (上昇) 販売単価 : (上昇) - (下落)  
従業員 : (不足) - (過剰)

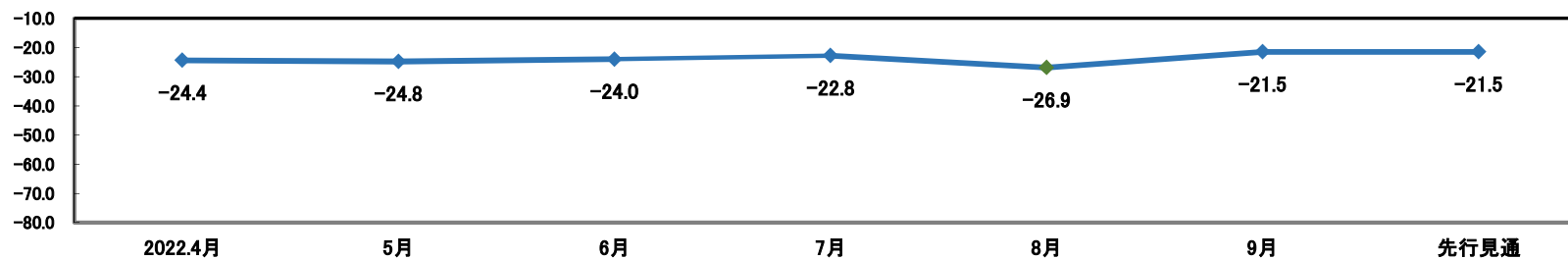
◇LOBOとは

「CCI (CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY) - QUICK SURVEY OF LOCAL BUSINESS OUTLOOK」

(商工会議所早期景気観測)からとった略称

### 3. 旭川商工会議所2022年度LOBO調査（早期景気観測）結果 3-1. 上半期旭川市全産業D I値（前年同月比）の推移

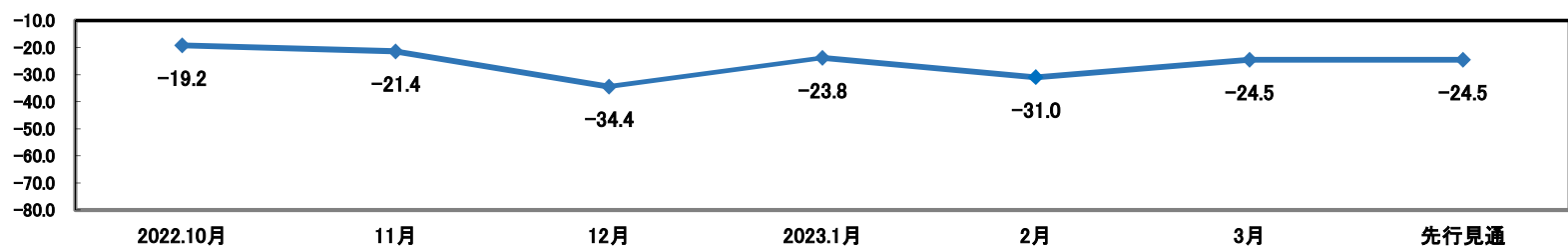
	2022.4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 2022.10~12月
業況	▲24.4	▲24.8	▲24.0	▲22.8	▲26.9	▲21.5	▲21.5
売上	▲17.4	▲6.2	0.9	▲0.8	▲2.4	10.3	▲2.4
採算	▲29.1	▲24.8	▲21.5	▲22.8	▲30.1	▲24.6	▲24.6
仕入単価	▲78.7	▲76.7	▲79.3	▲74.8	▲72.4	▲75.4	▲71.4
販売単価	22.0	26.3	30.6	35.7	34.2	36.5	34.1
従業員	25.2	34.1	30.6	28.4	34.9	37.3	35.7
資金繰り	▲15.7	▲11.6	▲15.7	▲15.5	▲14.7	▲12.7	▲11.9



- ▶ 全産業の上半期状況を見ると業況D Iは▲21.5~▲26.9にて推移し、2017年9月以来、連続でマイナス水準を推移している。また従業員D I値は高い水準で人員不足感を示している。
- ▶ 売上D I値は6月、9月において増加傾向へと反転するも、仕入単価D I値の高止まりに比べて、販売単価D I値の上昇値が低水準となり、依然として採算D I値の悪化は続いている。

### 3. 旭川商工会議所2022年度LOBO調査（早期景気観測）結果 3-2. 下半期旭川市全産業D I 値（前年同月比）の推移

	2022. 10月	11月	12月	2023. 1月	2月	3月	先行き見通し 2023. 4～.6月
業況	▲19.2	▲21.4	▲34.4	▲23.8	▲31.0	▲24.5	▲24.5
売上	14.4	3.9	▲11.7	▲5.5	▲8.0	▲4.9	▲4.1
採算	▲20.8	▲23.0	▲29.7	▲25.4	▲31.0	▲23.7	▲19.6
仕入単価	▲78.4	▲72.2	▲72.7	▲69.8	▲69.0	▲67.2	▲68.1
販売単価	32.8	37.3	33.6	29.3	31.8	29.5	31.1
従業員	40.8	40.5	35.2	31.7	30.9	31.1	27.0
資金繰り	▲10.4	▲11.9	▲14.8	▲15.1	▲18.2	▲17.2	▲21.3



- ▶ 全産業の下半期状況を見ると業況DI値は▲19.2～▲24.5にて推移。また従業員DI値は上半期と比べても高い水準で人員不足感を示している。
- ▶ 売上DI値は上半期に続いて10、11月は増加傾向へと反転するも、その後また減少。仕入単価DI値も依然として大幅な上昇が続いている。また年度末から先行き見通しに向かって資金繰りDI値が徐々に悪化傾向となっている。



### 3. 旭川商工会議所2022年度LOBO調査（早期景気観測）結果 3-3. 旭川市産業別DI値（前年同月比）の推移

	2022. 4月	5月	6月	7月	8月	9月
建設業	▲27.6	▲46.7	▲38.0	▲48.1	▲46.7	▲43.3
製造業	▲22.6	▲20.0	▲25.0	▲13.3	▲30.8	▲16.7
卸売業	▲28.5	▲22.2	▲ 7.4	▲21.5	▲17.8	▲17.3
小売業	▲22.2	▲20.0	▲36.9	▲31.6	▲21.0	▲21.0
サービス業	▲19.1	▲ 9.1	▲11.1	5.3	▲10.0	0.0

	10月	11月	12月	2023. 1月	2月	3月	先行き見通し 2023. 4～.6月
建設業	▲19.2	▲21.4	▲34.4	▲23.8	▲31.0	▲24.5	▲24.5
製造業	14.4	3.9	▲11.7	▲ 5.5	▲ 8.0	▲ 4.9	▲ 4.1
卸売業	▲20.8	▲23.0	▲29.7	▲25.4	▲31.0	▲23.7	▲19.6
小売業	▲78.4	▲72.2	▲72.7	▲69.8	▲69.0	▲67.2	▲68.1
サービス業	32.8	37.3	33.6	29.3	31.8	29.5	31.1

- ▶ 産業別の状況を見ると新型コロナ感染拡大の終息が見え始めた下半期にてサービス業のDI値が回復傾向となった。
- ▶ 一方、原材料価格の高騰による影響は幅広い業種へと影響を与えており、中でも小売業において、10月以降の業況DI値の悪化は他業種に比べても著しく悪化する結果となった。